

vol. 115通信 (平成22年3月9日発行)



発行元：株式会社サポート・ワン・サービス  
愛知県津島市愛宕町四丁目113 〒496-0036  
代表TEL：(0567) 26-3921  
FAX：(0567) 26-3922  
ホームページ <http://www.s-o-s.co.jp>

◀梅は咲いたか、桜は/ナイス・デイ&ナイス・ホーム▶



暖かくなるとちょっとウキウキ♪外に出たくなるのには老いも若いも関係なし!「散歩したい」「出かけた」という意欲を大切にしたい。気候や体調等、色々なバランスを見計らって決行します。病歴による身体能力が異なる者同士、助けたり助けられたりしながら目的地まで到着したときは、達成感と安堵の表情。「きれいだった」「歩けた」という満足感が、「また行きたい」という次への目標や目的に繋がるはず。生活を豊かにするきっかけ作りになりますように。

◀コーヒーブレイク/愛宕の家▶

「最近、調子はいかが?」  
午後の時間に訪れたWさんの娘さんは、入居者のMさんと膝を突き合わせて話をしていました。自分の体調に不調を感じると話すMさんの言葉を遮らず、気長に「うん」「うん」と聞いて下さいませ。話を終えたMさんは「あまり気にし過ぎちゃいけないわね」と、自ら答えを出しました。その表情もとてもスッキリしていました。専門的な健康相談室のようです。自分の身内に逢いに来て、他の入居者さんにも親身になる姿を見て、本当の大家族の様でありがたく思います。



◀看護師コーナー/バイタルサインの一つ、体温について②▶

年を重ねると基礎代謝や運動量が減り、食べる量も減る。そのため、一般的な平熱に当てはまる人は少ない。低体温の人が多いのである。体温とは「深部体腔内の温度を意味する」。理論的には大動脈出口の血液温度がその指標になっている!だけど、それを測定するのは困難。測定可能で、これにより近い腋窩・口腔・直腸などを使う。一般的に平熱36~37度、微熱37~38度、中等熱38~39度、高熱39度以上と表現されている。・・・と、まずは一般的な体温の説明。  
「Oさん、36.8度で熱はないんだけど・・・」と報告がある。一般的には平熱。普段、35.0度台のOさんにとっては平熱と捉えてよいか?私の平熱は36.3くらいだから一般的な平熱にあてはめると1度上がっている。ということは、35.0度台のOさんにとって36.8度は十分に発熱状態と考える・・・と私は捉えている。  
毎日、バイタルを測る事で、その人の特徴を誰がみても分かりやすい数値として現す。何がその人にとって正常・標準であるかを把握することが何よりも大切。そこから、経管栄養の水分量などを調整していく。適当に増やせばいいという物でなく、1.0度体温が上昇すれば13%、基礎代謝量が増加するから・・・なんてことを考えながらやっている。それに合わせて、数値だけに捉われないよう、肌に触れ、表情をみて、声をかける。これを地道に繰り返すことを何より大切にしたい。(T)



◀約束の時間/ナイス・ケア▶

常勤のスタッフが訪問する件数の平均は1日7件程度。介護保険が施行された当初は、2時間~3時間の提供時間も多く、平均すると、1日4件程度の訪問件数だった。しかし、制度の見直しされる度に、1回の訪問提供時間数が減っていく。背景には色々な事情がある。ナイス・ケアでは、訪問~訪問の間に、基本的には30分の余裕を取り、移動・気持ちの切り替え・報告業務に費やす時間として確保するようにしている。利用者さんからは、「びつたりに来るし帰るし、お宅は硬いなあ・・・。」と言われることもある。たまたま、間違えて30分早く訪問してしまった時も迷惑かけるし、どんな事情だろうが遅れるときも迷惑を掛けることになる。事情があることを説明し了解を得ることを忘れて訪問することもある。日々、反省の毎日です。約束の時間を厳守しなきゃ。

老いの姿から学ぶ ~新聞記事の紹介~ 愛宕の家の日々より

中日新聞 中日春秋より (平成22年2月7日)

高齢者の認知症の女性が、ベッドに寝たきりになっている。胃に埋め込まれているのは直接、流動食を補給する「胃瘻」という処置だ。終末期医療はどこまで必要なのだろうか?そんな疑問が自然に浮かぶ。  
東京都世田谷区の特別養護老人ホーム「花ホーム」(定員100人)の平均年齢は85歳越えて認知症の人が9割。常勤の配置医として石飛幸三さん(74)が赴任したのは約4年前のことだ。  
認知症の高齢者には嚥下障害が多く、食事が誤って気管に入ったり、胃瘻から注入した流動食が逆流したりして、肺炎を起こし入院する人が後を絶たなかった。石飛さんとスタッフが模索したのは、家族と面談を重ねながら、過剰な栄養補給を避け、入所者を穏やかに看取る介護のあり方だった。  
口からの食事でむせるなら量を減らし、胃瘻を通じた量も調節をすると、肺炎で入院する人は減少した。経営は黒字に転じホームで自然に最期を迎える人が増えた。  
石飛さんは、プロ野球の投手の血行障害の手術を世界で初めて成功させるなど著名な血管外科医だった。配置医になって初めて穏やかな自然死の実態を知ったという。  
「今求められるのは、現代における新しい看取りの文化。特養はその任を実現することができる場所」と著者『「平穏死」のすすめ』で書いた。医療と介護の現場に静かな波紋を広げつつある。

◀自分達の責任とは・・・/ナイス・デイ▶

デイの責任者となり8カ月が過ぎようとしている。この期間、利用者さん達や関係する方々から色々なことを学ばせていただきました。改めて想うは『感謝』ばかり・・・。  
ナイス・デイはいろいろな方に利用していただいています。お風呂に入るのが目的の方、スタッフや他の利用者さんとお話をするのが目的の方、日中一人で過ごさせるのが心配だからと家族の希望で利用される方等々。また、身体的には身動きが取れるが認知症が重度だったり、知的理解力は正常なのに身体的に重度だったり、利用される方の状態も様々です。

そんな中、私たちデイスタッフの責任とは何だろうか。大きく言えば、ナイス・デイを利用して下さった方ひとり一人が「今日は楽しかった。」「来てよかった。」「今度はいつ?」と、共に過ごす時間を心から望んでいただける場所作り、そして、利用者さんを支える家族が安心して任せられるという気持ちを持っていただけるよう関わりを持つことではないかと思う。

私たち介護スタッフに求められるのは、表向きには、介護技術やコミュニケーション技術、知識や接遇態度といった事だと思う。しかし実際には、感性や思慮深さ、また学ぶ姿勢など、人としての質が求められ、また、問われている。自身を磨き続けることで責任を果たしたい(O)

◀地域密着型って何だろう・・・?/ナイス・ホーム▶

小規模多機能型居宅介護は地域密着型のサービス。『地域密着型って?』・・・  
今後、超高齢化社会を迎えるに当たり、認知症高齢者や中重度の要介護高齢者、また、一人暮らし高齢者の増加が見込まれるなかで、出来る限り住み慣れた地域での生活を継続できるように、平成18年4月の介護保険改正により創設された新しいサービス体系です。  
市町村(ナイス・ホームであれば津島市)が事業者の指定や監督を行います。施設などの規模が小さいので、利用者のニーズにきめ細かく応えることができます。従って、事業者が所在する市町村に居住する者(住民票を持つ方)が利用対象者となっています。市町村が日常生活圏域ごとに必要な数量を計画し、整備しています。津島市には、1件(ナイス・ホーム)しかありませんが、小規模多機能事業所が増えることを願っています



◀編集後記▶

3月9日は「サンキュー」の日。デイサービスでは「ありがとうと伝えたい人はだれ?」という話題になり、それぞれが「OOさん」と答える中、愛宕の家に入居しているMさんが「ここでお世話になっている皆に『ありがとう』と言いたい」と話してくれたそうです。聞いていたスタッフは思わずウルツと目頭が熱くなってしまったとか。  
Mさんと話してくれたスタッフに「ありがとう」。🍌🍌🍌  
皆さんは誰に「ありがとう」と伝えたいですか?(M)